

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 望月 重延
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



パレードもエンディングを迎え興奮のるつぽと化するサンバ隊！次頁でオープニングから順番にご笑覧ください。

京都市立芸術大学移転記念イベント

京都芸大同窓会「ありがとう沓掛キャンパス」2023.7.1開催報告

沓掛キャンパスに感謝のありがとうを刻むために…43年間温かく見守って頂いた地域の皆さまに感謝を伝えるために…創立143周年記念日に美術と音楽の力で賑々しく！感謝と祝賀と赤松学長に因んでコンセプトカラーは赤！京都芸大宴会部沓掛1期生を中心に企画・演出検討が本格化したのは今年3月のことでした。

高齢化する同窓会役員幹部より選ばれし沓掛育ちの若き実行委員はわずか4名、実働準備約3ヶ月、総予算60万円(両学部折半)の厳しい現実が、皆の京芸魂に火をつけました。制作・演奏・上映・音響・照明・撮影・受付・販売・設営・撤収・清掃…延べ280名もの同窓生・教職員・学生有志が力を合わせ、無事開催にいたりしました。

当日は降水確率90%、曇天を衝け！とばかりに大学会館ホールに高らかに響き渡る音楽学部生によるファンファーレ、弦楽四重奏、開会式は肅々と執り行われ、門川市長より「弥栄～」の乾杯後、盛り上げ隊！沓掛サンバーズの乱入でステージは一変。お馴染みの歌謡曲で連呼する「オ・レー♪」の歌詞に御礼の気持ちを重ね、場内はお祭りムードでワチャワチャと全員集合撮影会。

第二部は、パシエの音響彫刻を愛する音楽家集団 アンサンブル・ソノラ、副産物楽団ゾンビーズ、漆マリンバ、ザ悲鳴ロンリネスの多彩な演奏。初公開「音と形 -Sound and Structure-」、秘蔵映像沓掛アーカイブ上映。各専攻では「同窓生テラス」と称し、研究室・制作室の開放と素材・道具・古本の持ち帰りなど盛況山。

赤を基調に美術と音楽の融合を表現したドローイングをキービジュアルに印刷物やウェブサイトを展開。記念品「京芸サンバエール」・「だし巻き缶」・キャンパスの小石入り空缶楽器の制作。自主企画の寄せ描き、沓掛街道にまつわる作品。御来場者の中から赤っ恥ドレッサー賞。赤に拘り過ぎてか、ほんの少し赤字にも…苦笑

フィナーレは、岡田加津子先生率いる京芸サンバ・バテリアに誘われ、約250名もの大行列でコンコンチコン♪構内1周笑顔のパレード。キャンパスをカンパスに真っ赤な色彩とサンバのリズムで、半世紀前の学生から現役まで美術と音楽が時空邂逅！！

総勢800名以上(Kyoto Music Caravan400名以上)の御来場で大盛況！沓掛の記憶を胸に新天地でも、芸術でミライを照らし、テラスのような大学を目指す母校にエールを贈り続けたいと思います。全ての皆さまに心より御礼申し上げます。「オ・レー♪」

日時：2023年7月1日(土)13:00～17:30

会場：大学会館・食堂・アトリエ棟・中央棟・他

主催：京都芸大同窓会(象の会、真声会) 協力：京都芸大

Special Thanks(敬称略)

企画：辻中達也 辻中尚子 竹下俊也 河原有伽 中島隆章
制作：行沢泰 行沢祐子 チャッピー岡本 藤本美歩 二瓶晃
演奏：沢田稯治 渡辺亮 岡田加津子 北村千絵 撮影：柴田誠
音響：西村千津子 吹田哲二郎 司会：熊谷綾乃
協力：芸術資源研究センター 株式会社不二家商事 泉工業株式会社
mr.kanso Image market 京都芸大宴会部

「ありがとう沓掛キャンパス」実行委員会

委員長：望月重延 副委員長：登博美 オブザーバー：藤田訓仁子
事務局：関本恭子 浅井真奈美
実行委員：野崎邦雄 安井友幸 田中栄子 人長果月 中村公俊
サポーター：茶谷文子(京都芸大宴会部管理人)

(文責：茶谷文子)

Head line

「ありがとう沓掛キャンパス」開催報告……………	1
どこにいても……………	3
2023年度役員総会の報告……………	3
同窓会役員名簿……………	6
五芸祭の報告……………	6
大学移転支援基金へ1,420万円寄付……………	7
「芸大祭2023」の開催……………	7
新校舎オープン 2023.10.1……………	7

同窓会・居酒屋とTea Café「象の店」出店のご案内……………	8
「京都市立芸術大学公開美術講座」(仮称)を開催……………	8
新任あいさつ……………	8
Relay Talk 象の会・いろいろあわせ ⑦……………	10
「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品……………	11
芸術資料館(来春リニューアルオープン)……………	12
事務局だより……………	12
編集後記……………	12



曇天を衝け！とばかりに開宴を待つ静寂の大学会館（内海和雄先生設計）



トランペット・ホルントロンボーン・チューバ 12 名によるファンファーレ



弦楽四重奏は弦楽専攻 4 回生 微笑みの司会は声楽卒 熊谷綾乃さん



優しい赤のドレスと京芸サンバエールのコーデも美しい赤松玉女学長



バッシュの音響彫刻を愛する音楽家集団 アンサンブル・ソノラの皆さん



ピアノ・弦楽・管打楽・声楽・器楽・作曲・音楽学・日本音楽研究・染織・構想設計・彫刻
バラエティー豊かな専攻の学生と教員 15 名による副産物楽団ソンビーズ



漆マリンバの演奏は管打楽専攻 4 回生 楽器制作は漆工専攻 4 回生



「クツカケサンバ」を踊る門川市長と草間彌生先輩役 河原有伽さん



「オ・レイ♪」は御礼の気持ち！愉快な赤っ恥ドレスの皆さん



ザ・悲鳴は還暦レッドな油画家卒 中島隆章さんとドラムすこさん親子



真っ赤なだし巻き缶はいかが？日本画卒 行沢夫妻とスタッフさん



京芸サンバエール・隊長モデルは彫刻卒 チャッピーさん渾身の作



デザイン卒 藤本美歩さんのドローイングをキービジュアルに展開



漆工棟では漆器達のまわりでほっこり…同窓生を照らす茶話会に



芸術資源循環センターでは廃材加工品・各種素材・道具類を無料で！！



染織専攻学生「沓掛街道を歩く」朱に交わってくれた赤い作品達



1981 ガイド有志の寄せ描きは当時の総合基礎作品へのオマージュ



雨雲も黙る！パレード率いる隊長 作曲専攻 岡田加津子先生の勇姿



晴れ晴れ笑顔！京芸サンバ・バテリアは音楽学部生・同窓生有志 36 名



奈落の底で元気に撒撒！沓掛に関わる全ての皆さんありがとう！！

「ありがとう沓掛キャンパス」

どこにいても 徳永 杏子 1999年(平11) V D

気が付けば、卒業から20年以上経っていました。
今回、沓掛時代の思い出を文章にしると仰せつかったのですが、何をどう話せば良いのか見当がつかない位思い出はあります。

思い出と言うよりは、今でも、私が制作する上で何度も参考にしているような内容です。

「大学時代は、あんな風に考えていたからあのような作品ができたのか。じゃあ今回は、こう考えて制作してみよう。」
そんな思考は、日々湧いてきます。

卒業したての頃は、この大学にいた事の、本当の価値に気付いていませんでした。

個人で仕事をするようになって初めて「自分の作りたいものを、ただただ追求した4年間」というものの価値に気がきました。

「思考」は、「制作」でも「製作」でも、する上で一番重要な土台の一つだと思います。

でも社会に出ると、「良いものを作りたい」という思考以外に考えなければならない事が、山のように出てきます。

そんな中でも、4年間考えに考えてつまずきまくった私の「思考」は、今までずっと私を支えてくれました。

大学が移転しても、教授方の「京都芸大が教えるものづくりの本質」が変わらなければ、きっとこれからも、卒業していくクリエイター達の支えになってくれるでしょう。

今、私が経営しているお店には、私が卒業制作で作った作品が飾ってあります。
幼いなあと思う時もあるし、ここまで純粋にものづくりを追求できていた事が懐かしく思う時もあります。

沓掛の大学時代は、友達と馬鹿な事ばかりやりながら、悩みながらの、本当に楽しい4年間でした。

新しい校舎で学ぶ方達が、それぞれの「ものづくり」の土台をしっかりと見つけてくれますように。

そして、1年でも長くものづくりを続けてくれますように。
沓掛の関係者の皆様、そして落書きだらけになった校舎さん、本当にお疲れ様でした。



2023年度役員総会の報告

2023年(令5)7月1日(土) 10:00~11:30
京都市立芸術大学新研究棟2階 大会議室
出席者数：49名(出席者31名、委任状18名)
議決権総数：79名

今年は、新型コロナも落ち着きを見せ、大学も今秋に京都駅東へ移転する記念すべき年になりました。また7月1日は、創立143年の記念日で、午後から、43年間お世話になった洛西住民の方々へ感謝の意を表する「ありがとう沓掛キャンパス」イベントを両同窓会主催で開催しました。

そのような日程から本年役員総会は、大学構内で開催し、恒例の「懇親交流会」は中止としました。

開会挨拶：望月重延会長 司会：阿部 緑副会長
議長：小山格平副会長
議事録署名人：小山格平議長、野崎邦雄代表幹事
閉会挨拶：出井豊二副会長

第1号議案 2022年度 事業報告

昨年の役員総会で2022年度の重点事業として次の事業を確認しました。

- ① 京都芸大同窓会アートオークション2023の開催
- ② 2023年度新入生から入会金に加え、新たに終身会費の納付を実現する活動
- ③ 大学移転に伴い同窓会室の移転(引越し)の準備活動
その他、秋の芸大祭に同窓会の模擬店「象の店」を開店



「アートオークション2023」は、大学移転支援基金へ当初の目標である1000万円を超えて1420万円を達成することができ、大成功でした。詳細は事業の報告書をご覧ください。

本年4月入学の新入生(学部、院)から入学時に入会金と終身会費を一括(4.5万円)納付いただくようお願いしました。結果、終身会費109件と入会金108件の入金があり、前年より245万円程の増収となりました。

大学移転に際し、同窓会事務局として必要な面積と設備の確保を大学へお願いしてまいりました。概ね了解いただき、大学事務局の移転と一緒に9月下旬に引越す予定です。場所は、新校舎C地区D棟2階北東角、47平方メートル(真声会と共同)です。また、先の大戦で戦死病死した同窓生の慰霊碑と植樹を新校舎へ移設いただくようお願いしています。

コロナで中断していた芸大祭の同窓会模擬店「象の店」ですが、22年度は対面の芸大祭が実現し、象の店出店も実現しました。しかし、飲酒を伴う出店は開催委員会から許可されず、やむを得ず「Tea Café」として3日間開店し好評を得ました。その他についても、例年同様実施してまいりました。

主な事業と活動

- 1 「アートオークション2023」(1月)の開催 実行委員会開催
- 2 「ありがとう沓掛キャンパス」イベント開催の準備
- 3 新入生へ終身会費徴収のお願い(3月)
- 4 同窓会事務局移転引越し準備
- 5 芸大祭へ模擬店「Tea Café象の店」出店(11月)
- ・新入生へ入学祝(学部：総合基礎ノート、院：「京都芸大130年の歩み」)贈呈
- ・総務委員会開催(4月、3月)
- ・役員総会 からすま京都ホテル(7月9日)
- ・会報象の発行(9月、2月)編集委員会の開催
- ・「芸大作品展」同窓会賞の授与(3月)
- ・卒業式、入学式に正副会長出席
- ・卒業祝「同窓生名簿2020」贈呈
- ・真声会との連絡会議
- ・「同窓生名簿2023」の頒布 14部
- ・ホームページの運営管理
- ・大学支援事業(大学からの申請無し)
- ・同窓会後援名義使用 0件
- ・同窓生作品展などのHPへ掲載 54件
- ・慶弔(祝電) 2件

第2号議案 2022年度会計報告

決算報告書 (2022年(令4)4月1日～2023年(令5)3月31日) (単位：円)			
一般会計			
(収入の部)			
項 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	1,888,995	1,888,995	2021年度より
繰 入 金	6,932,000	6,932,440	事業基金特別会計より
年 会 費	300,000	195,000	79件(2021年度125件)
終 身 会 費	1,725,000	6,150,000	232件新入生含む(2021年度85件)
入 会 金	2,190,000	1,620,000	@15,000×108件(2021年度152件)
アートオークション落札額	0	21,508,870	
雑 収 入	1,000	294,923	大学への関係寄付金30,000、関係会費20,000、定額の会費は4,950 費など
利 息	5	3,966	ゆうちょ、京銀、中銀、UFJ、みずほ、三井住友
合 計	13,037,000	38,594,194	
(支出の部) (単位：円)			
項 目	予 算	決 算	備 考
運営費	1,905,000	1,546,979	
事 務 費	100,000	104,704	事務消耗品、印刷費など
通 信 費	100,000	83,770	電話代、郵送代など
人 件 費	800,000	887,000	役員手当80,000、役員行動費198,000、事務局手当、通勤手当
会 議 費	600,000	264,006	役員総会、総務委員会、各委員会など
慶 弔 費	5,000	3,014	祝電、お悔やみなど
ホームページ運営費	150,000	150,000	ホームページ管理、運営
郵便加入者負担金	100,000	54,485	
備 品 費	50,000	0	
事業費	10,293,000	10,437,907	
アートオークション	6,932,000	7,307,896	
同窓生名簿編集(助成金)	1,000	0	存目計上
会報「象」発行	1,700,000	1,986,264	9月、2月発行
芸大祭出店	150,000	187,467	「Tea Cafe 象の店」
同窓会展	1,000	0	存目計上
作品展 同窓会賞	280,000	245,280	賞金@ 20,000 × 12 賞状作成
新入生御祝	132,000	165,000	2023 年度入学祝 総合基礎ノート シール
卒業生御祝	595,000	546,000	同窓生名簿 2020 @ 3,500 × 156 冊
大学支援	500,000	0	大学への事業支援 申請なし
五芸祭補助	1,000	0	存目計上
修学支援	1,000	0	該当なし
予備費	838,000	0	
雑支出	1,000	30,000	大学へ移転寄付金送金
繰出金	0	6,932,440	事業基金特別会計へ
合 計	13,037,000	18,947,326	
次年度繰越金	0	19,646,868	

事業基金 特別会計 (収入の部)			
項 目	予 算	決 算	備 考
繰 越 金	22,900,000	22,900,000	2021 年度より
積 立 金	0	0	
返 済 金	800,000	7,732,440	名簿特別会計より 800,000 一般会計より 6,932,440
雑 収 入	0	0	
利 息	0	0	
合 計	23,700,000	30,632,440	

(支出の部)		(単位：円)	
項 目	予 算	決 算	備 考
取り崩し	6,932,000	6,932,440	一般会計(アートオークション事業)へ
貸 出 金	0	0	
合 計	6,932,000	6,932,440	
次年度繰越金	16,768,000	23,700,000	

同窓生名簿特別会計 (2020～2025 年の途中、2022 年度分) (収入の部)			
項 目	予 算	決 算	備 考
繰 越 金	1,202,972	1,202,972	2021年度より
助 成 金	0	0	本年度なし
借 入 金	0	0	本年度なし
広 告 料	0	0	本年度なし
名簿頒布金	635,000	602,000	@4,000×14冊 @3,500×156冊
雑入・利息	28	3	利息
合 計	1,838,000	1,804,975	

(支出の部)			
項 目	予 算	決 算	備 考
編 集 印 刷	0	0	本年度なし
編集委員会	0	0	本年度なし
通 信 費	10,000	0	通信費 交通費
その他経費	10,000	0	事務一般
返 済 金	800,000	800,000	特別会計へ(5年の3年目)
合 計	860,000	800,000	
次年度繰越金	1,018,000	1,004,975	

財産目録 (2023年3月31日現在) (単位：円)			
流動資産	44,351,843	(前年度 25,991,967)	
普通預金	三菱 UFJ 銀行	21,133,443	
普通預金	三井住友銀行	186,005	
普通預金	みずほ銀行	211,019	
定額貯金	ゆうちょ銀行	2,800,000	
通常貯金	ゆうちょ銀行	212,654	
当座預金	ゆうちょ銀行 郵便振替口座	8,238,981	
通常貯金	ゆうちょ銀行 名簿編集委員会	1,271,579	
普通預金	京都銀行	8,258,616	
普通預金	京都中央信用金庫	2,000,345	
現 金		39,201	
固定資産		な し	
負 債		な し	
正味財産	44,351,843	(前年度 25,991,967)	
一般会計		19,646,868	
事業基金特別会計		23,700,000	
名簿特別会計		1,004,975	

2023年5月31日 上記のとおり報告いたします。

会 計 藤本 英子 ㊞

会 計 小畑 剛 ㊞

2023年6月6日、大学会議室 2 で監査を行い、同窓会会計帳簿、預金通帳、領収書類を精査し、この報告の通り相違ないことを確認いたしました。

会計監査 長谷川 直人 ㊞

会計監査 水野 収 ㊞

第1号、第2号議案は賛成多数で承認されました。

第3号議案 2023年度 事業計画案

本年度は母校が沓掛の地から京都駅東隣(下京区下之町 57-1)へ移転する年で、同窓会にも大きな出来事です。創立記念日である7月1日に、音楽学部同窓会真声会と象の会で「ありがとう沓掛キャンパス」イベントを開催します。

また、秋の「芸大祭」が新校舎で開催される予定です。同窓会も居酒屋「象の店」が開店できるよう芸大祭実行委員会にお願いをしています。飲酒文化を学び、現役学生と卒業生の交流を育む芸大祭の伝統を継承したく期待しています。また、芸大祭を支援するため実行委員会に一定の助成金を支出する仕組みを新設したいと考えます。

また、同窓生グループの方々から、同窓会で講演・研究など文化事業の実施に力を入れるべきではないか？との指摘があり、具体的な企画案も提示いただきました。芸大祭の期間中に大学で開催する方向で準備を進めます。

大学移転に関し、新しい校舎の「内見会」(見学会)を両同窓会主催(大学協力)で開催できればと考えています。

本年度は、次の「同窓生名簿2025」発行の中間点になり、

発行準備に取り組む年度です。「同窓生名簿2025発行準備委員会」を立ち上げます。

アートオークションのため休止していた「同窓会展」の復活が課題で残っています。新校舎で「同窓会展」が開催できるのか、大学と相談し方法を検討します。

その他、例年通りの事業（議案書事業報告参照）を実施して参ります。

第4号議案 2023年度 予算案

予算書(案) (2023年(令5)4月1日～2024年(令6)3月31日) (単位：円)		
一般会計		
(収入の部)		
項 目	予 算	備 考
前年度繰越金	19,646,868	2022 年度より
繰 入 金	0	事業基金特別会計より
年 会 費	150,000	@ 1,000 × 150 件
終 身 会 費	4,950,000	@ 15,000 × 100 件 @ 30,000 × 115 件 (新入生)
入 会 金	1,650,000	@ 15,000 × 110 件
アートオークション落札額	0	
雑 収 入	1,000	存目計上
利 息	132	ゆうちょ、京銀、中信、みずほ、三井住友
合 計	26,398,000	
(支出の部)		
項 目	予 算	備 考
運 営 費	2,795,000	
事 務 費	110,000	事務消耗品、印刷費など
通 信 費	100,000	電話代、郵送代など
人 件 費	1,600,000	役員手当 80,000、役員行動費 200,000、事務員手当 1,050,000、アルバイト 170,000、通勤手当 100,000
会 議 費	250,000	役員総会、総務委員会、各委員会など
慶 弔 費	5,000	祝電、お悔やみなど
ホームページ運営費	150,000	ホームページ管理、運営
郵便振替口座 加入者負担金	80,000	
備 品 費	500,000	事務室備品、パソコン
事 業 費	4,433,000	
「ありがとう杏樹キャンパス」イベント	300,000	
アートオークション 2023	0	
同窓生名簿編集 (助成金)	30,000	名簿編集準備委員会設置
会報「象」発行	2,200,000	印刷、発送 年 2 回
芸大祭出店	300,000	「象の店」
美術講座	100,000	芸大祭関連講座
同窓会展	1,000	存目計上
作品展 同窓会賞	270,000	賞金 @ 20,000 × 13 賞状作成など
新入生御祝	170,000	総合基礎演習用ノート
卒業生御祝	560,000	同窓生名簿 2020 @ 3,500 × 160 冊
大学支援	500,000	大学への事業支援
五芸祭補助	1,000	存目計上 (当番年度のみ)
修学支援	1,000	存目計上
予 備 費	569,000	
雑 支 出	1,000	存目計上
繰 出 金	18,600,000	大学移転支援基金へ寄付 14,200,000、特別会計へ 4,400,000
合 計	26,398,000	
次年度繰越金	0	

事業基金 特別会計

(収入の部)		
項 目	予 算	備 考
繰 越 金	23,700,000	2022 年度より
積 立 金	4,400,000	一般会計より
返 済 金	800,000	名簿特別会計より
雑 収 入	0	
利 息	0	
合 計	28,900,000	
(支出の部)		
項 目	予 算	備 考
取り崩し	0	
貸 出 金	0	
合 計	0	
次年度繰越金	28,900,000	

同窓生名簿特別会計 (2020～2025 年の途中、2023 年度分)

(収入の部)		
項 目	予 算	備 考
繰 越 金	1,004,975	2022 年度より
助 成 金	0	本年度なし
借 入 金	0	本年度なし
広 告 料	0	本年度なし
名簿頒布金	560,000	@ 3,500 × 160 冊
雑入・利息	3	利息
合 計	1,564,978	

(支出の部)

項 目	予 算	備 考
編集印刷	0	本年度なし
編集委員会	0	本年度なし
通信費	10,000	存目計上
その他経費	10,000	存目計上
返済金	800,000	特別会計へ (5 年の 4 年目)
合 計	802,000	
次年度繰越金	762,978	

第3号、第 4 号議案は賛成多数で承認されました。

第5号議案 2023期 役員幹事の一部交代

会計：小畑 剛 (退任)、 裕 康治 (新任)

学内幹事：金田勝一(退任)、石原友明(油画新任)

5号議案は、賛成多数で承認されました。

役員会での主な意見・質問

・鶴田幹事 市民公開美術講座の開講について中村先生から要望を聞いている。同窓会で取り組んでいただけるか？

<回答> 前からお聞きしており、その準備も進めているところで、今秋の「芸大祭」をステージに開催できるよう考えています。(野崎)

・鶴田幹事 新校舎オープニングイベントを同窓会で企画し、催される考えは無いですか？

<回答> そのような提案を具体的には聞いていません。(望月)

・中野幹事 新校舎には、サッカーやラグビーができるグラウンドが無い。クラブ活動も出来ない状況に同窓会で何か対処できないか？

<回答> そうした状況は聞いているが、大学がどう対応されるのか不明であり、同窓会も対処の方法が無い。先ず大学へ要望して欲しい。(野崎)

司会者(阿部 緑)

同窓会事務局で26年間勤めていただいた開本恭子さんが、大学移転を機に本日の役員総会で退任されることになりました。しかし、引き継ぎ期間として9月末までは勤務していただきます。後任は本学日本画卒(1990年)の浅井真奈美さんに就任していただくことになりました。



同窓会役員名簿

名誉会員	中西 進	潮江 宏三	建皇 哲	鷺田 清一
相談役・顧問	上村 淳之（相談役）	中井 貞次（顧問）		
名誉会長	赤松 玉女（理事長・学長）			
名誉副会長	上田 誠（副理事長）	天沼 憲（事務局長）	小山田 徹（美術学部長）	礪波 恵照（研究科長）
	学 内	学 外		
会 長		望月 重延（1967（昭42）塗）		
副会長		出井 豊二（1973（昭48）D）	小山 格平（1976（昭51）D）	阿部 緑（1983（昭58）染）
代表幹事	安井 友幸（漆工）	野崎 邦雄（1969（昭44）洋）		
会 計	藤本 英子（環境D）	碓 康治（1991（平3）日）●		
監 査	長谷川直人（陶磁器）	水野 収（1979（昭54）日）		
幹 事	三橋 卓（日本画）	三宅 五穂（1951（昭26）彫）	中井 貞次（1954（昭29）染）	上村 淳之（1957（昭32）日）
	石原 友明（油画）●	榊原 吉郎（1957（昭32）洋）	芦田 裕昭（1959（昭34）日）	伊藤 義明（1959（昭34）図）
	田中 栄子（版画）	舞原 克典（1961（昭36）洋）	川口 凱正（1963（昭38）日）	佐野 賢（1966（昭41）彫）
	金氏 徹平（彫刻）	古川加津夫（1970（昭45）D）	鶴田 憲次（1971（昭46）洋）	竹内 三雄（1972（昭47）彫）
	人長 果月（構想設計）	中野 順二（1972（昭47）塗）	辻 喜代治（1973（昭48）塗）	佐藤 敬二（1974（昭49）D）
	滝口 洋子（総合デザイン）	岩間 香（1977（昭52）日）	酒井 雅子（1978（昭53）洋）	塚田 章（1979（昭54）D）
	高井 節子（デザインB）	松尾 恵（1980（昭55）染）	松本 陽子（1982（昭57）版）	東田 幸治（1983（昭58）油）
	日下部雅生（染織）	児玉 靖枝（1984（昭59）油）	村岡 幸信（1985（昭60）日）	國松 万琴（1985（昭60）陶）
	田島 達也（芸術学）	河原 有伽（1986（昭61）版）	茶谷 文子（1986（昭61）P D）	谷本 天志（1989（平1）油）
	飯田 真人（教職）	安藤 吉準（1989（平1）構）	辻野 宗一（1990（平2）日）	新田 恭子（1990（平2）染）
		安井 健二（1992（平4）V D）	福岡 崇（1994（平6）P D）	吉岡 佐知（1995（平7）日）
		新道 牧人（1997（平9）彫）	福本 双紅（1997（平9）陶）	正垣 雅子（1998（平10）日）
		新道 尚美（1998（平10）陶）	川越 里美（1998（平10）陶）	北里美絵子（1998（平10）染）
		黒川 彰宣（1999（平11）彫）	徳永 杏子（1999（平11）V D）	小川久美子（1999（平11）染）
		関林 宏祐（2001（平13）日）	谷口 晋也（2001（平13）陶）	吉岡 千尋（2004（平16）油）
		谷澤紗和子（2005（平17）油）	久門 剛史（2005（平17）彫）	佐野 曉（2005（平17）漆）
		吉岡きくみ（2007（平19）環D）	公庄 直樹（2007（平19）漆）	中川 愛子（2008（平20）環D）
		中村 潤（2009（平21）彫）	澤村 春菜（2010（平22）日）	萩原 佳奈（2010（平22）漆）
		村井 都（2013（平25）版）	藪野 志織（2014（平26）芸）	多田 晶子（2014（平26）染）
		山本真実江（2015（平27）陶）	田村 美有（2016（平28）P D）	

●印は新任

（文責：野崎 邦雄）

五芸祭の報告

日程 令和5年5月26日(金)～5月28日(日)

会場 東京藝術大学

(1) 総合優勝 金沢美術工芸大学

(2) 各種目優勝校

バスケットボール 金沢美術工芸大学

サッカー 金沢美術工芸大学

バドミントン 東京藝術大学

バレー男子 金沢美術工芸大学

バレー女子 金沢美術工芸大学

五芸祭の委員長を務めた経験は、私にとって今後の芸術活動の糧となる素晴らしい経験でした。今年の5芸祭は3年ぶりとなる5つの芸術大学が集まって行う芸術の祭典で、多くの学生たちの才能と情熱を注ぎ込んだイベントとなりました。

準備期間はコロナ明けとあって例年よりも短く、前年の資料から五芸術祭とはどんなものであったのか、ということから始まりました。他大学も同様に右も左も分からない状態でのスタートでしたが、各大学の協力のもと、幾度も会議や話し合いを重ね、協力し、一丸となって進めることができました。

3日間行われた五芸祭は、大きなトラブルもなく終えることができ、演奏会や学生の作品展、フリーマーケットに加えて、あまり出会うことのない各大学の学生と芸術を通じた交流会が開かれました。各大学の個性と才能が光り輝き、参加者たちの楽しむ姿を現地で目にすることができたことは5芸祭委員代表として嬉しく思います。

準備を進めるなかで団結と協力の末に解決策を見出して話し合いに進むことができ、困難を乗り越えたことによって委員会全体の結束力がさらに強くなったと感じました。また五芸祭の委員長としての経験は、リーダーシップやチームワークを学ぶ良い機会でもあり、意見を尊重し、共感し合いながら、目標に向かって進む重要性を学ぶことができました。

このような経験を胸に、今後も新たな挑戦をしていき、芸術の力で人々の心に感動を届けることができるような活動をしていきたいと思います。時代の変化とともに一時は開催を危ぶまれた五芸祭でしたが、情勢に柔軟に対応しつつ、今後も5大学間での交流が続くことを願っています。

実行委員長 川崎優芽(デザイン科2回生)



アートオークション 2023 Hand On 大学移転支援基金へ1,420万円寄付

2021年に予定していた大学移転支援を目的とした京都芸大同窓会「アートオークション」は、新型コロナ感染拡大防止のため開催が延期され、2023年1月に開催（ギャラリーアクア）されました。秋の移転までに開催できホッとしています。

事業報告書のとおり当初の予想を超える出点数と出品者があり、それに比例して落札金額も2150万円強と、事業として大成功に終わりました。大学教員や若手作家からの出品が多くオークションとしての魅力と卒業生作品展としても興味深い展示となりました。落札額から事業実施に要した経費730万円を差し引いた1420万円を大学の移転支援基金へ寄付することができました。7月1日の大学創立記念日に開催された「ありがとう沓掛キャンパス」の開会式において両同窓会長（望月、登）から赤松理事長（学長）へ目録が手渡され、続いて赤松理事長から両同窓会へ「感謝状」が授与されました。

全体の目標額には及びませんが両同窓会会員個々の移転への思いが形となったものです。ありがとうございました。



ちなみに、大学移転支援基金は15億円の目標に対し10.8億円（本年4月末）が集まり、大学は今後も目標額達成に向け努力を続けられます。

（野崎邦雄）

「芸大祭2023」の開催



今年の芸祭のテーマは「MOVE ~Make Our ビット Entertainment~」に決定しました。メインタイトルである「MOVE」には、いよいよ差し迫った十月の校舎移転を機に、地域と共に活性化し、さらなる発展と進歩をしていきたいという想いが込められています。鮮やかで活気に溢れた芸祭を目指しています。沓掛キャンパスから移転後初の崇神キャンパスでの芸祭。学生一同、新たな

気持ちで向き合う芸術祭となります。沓掛キャンパスの専門棟の壁には、実はたくさんのラクガキが残っています。何でもないイラストやコメントから、ちょっとした愚痴や思い悩んでいたことまで、たくさんの思い出が詰まった“壁”です。名前も顔も知らない先輩方の、いつ書かれたのかも分からないラクガキが、今の私たちにも通ずることを語ってくれていると思うと

感慨深いものがあります。クスッと笑えて、勇気をもらえるような気がするのです。新キャンパスという便利な場所で綺麗な校舎というものに憧れる気持ちは、特に現役生には多くあることでしょう。ですが、移転後にはきっとこの場所を懐かしむ気持ちが芽生えていくはずです。ここにはたくさんの絵画やポスターが何気ない日常の中にあって、講堂や音楽棟では何世代にも渡って鮮やかな音楽が奏でられてきました。そんな沓掛キャンパスだからこそ、この場所にしかない“景色”というものがあります。新キャンパスにて、また一からそうした歴史を創っていく瞬間に、今私たちはいると考えています。そのための第一歩とも言える今年の芸祭。期待に胸を膨らませながらも、同時に不安でもあり、まだまだ手探り状態であることは否めません。ですが、その分たくさんの議論を重ね、開催まで漕ぎつけたその想いは人一倍です。コロナ禍が明け、以前の日常と京都の街の雑踏が段々と戻り始めてきました。地元の方々ひいては観光客の方々にも届くほどの、移転後初に相応しい芸大生らしく鮮やかな芸祭をお送りしたく思っております。崇神キャンパスでの記念すべき第一回目の芸祭に、ぜひお越しくださいませ。

芸祭本部委員 岡部璃音
芸祭長 田代明向

新校舎オープン 2023.10.1



地下鉄京都駅ホームの
移転ポスター



JR 京都駅大学移転カ
ウントダウン表示板

2023 年度「芸大祭」模擬店

同窓会・居酒屋とTea Café「象の店」出店のご案内 11月4日(土)～6日(月)

京都芸大が京都駅東に移転し、最初の「芸大祭」が今秋行われます。同窓会象の会は、同窓生の交流懇親の場として芸大祭への模擬店出店を重視してきました。

今年は、11月4日(土)、5日(日)、6日(月)の3日間の日程で開催予定です。10月移転後すぐの日程で、この会報発行時点では詳細がまだ決まってはおりません。しかし、昨年は無かった飲酒を伴う同窓会の模擬店、居酒屋「象の店」を一定ルール順守という条件下でぜひ実現したいと実行委員会にお願いしています。

一定のルールとは

・飲酒販売は350ml 缶一人一缶までとし 居酒屋での飲酒後は、
「芸大祭」開催エリアへの再入場は出来ない…等々

また 居酒屋「象の店」の営業時間にも制約(16時～18時半)を設け、それ以外の時間は、昨年同様にTea Café「象の店」(12時～18時半)を開く予定をしております。

模擬店の場所は、京都駅に一番近いC地区1階の「芸大通」の南端になります。

同窓生の皆様も落成した新しい学舎での芸大祭を楽しみにして頂き、ぜひTea Café&居酒屋「象の店」にお運びくださいませうご案内申し上げます。

なお内容の変更や詳細は決まり次第 美術学部同窓会ホームページにアップいたしますのでご確認ください。

象の店担当 小山 格平(同窓会副会長)

2023 年度「芸大祭」関連催事

「京都市立芸術大学公開美術講座」(仮称)を開催 11月4日(土)～5日(日)

主催/京都芸大同窓会象の会 協力/京都市立芸術大学

この秋、新キャンパスで「芸大祭」が開催され、同窓会も模擬店・居酒屋「象の店」開店と併せて「京都市立芸術大学公開美術講座」を実施いたします。

この講座は、同窓生からの提案を受け、同窓生有志の協力を得て、同窓会の「芸大祭」関連催事として開催する運びとなりました。キャンパス移転を機に『市民に開かれた大学』として芸術・文化の発信を行うことをめざし、来年以降も継続的に実施する予定です。

同窓生、学生の皆様、多くの市民の方々のご参加をお待ちしております。

●日時 2023年11月4日(土)、5日(日)両日 午前、午後

* 11月4日(土) 第一部 10時30分～12時(受付 10時～)

第二部 13時30分～15時(受付 13時～)

* 11月5日(日) 第一部 10時30分～12時(受付 10時～)

第二部 13時30分～15時(受付 13時～)

●会場 京都市立芸術大学構内の講義室(新キャンパス)

(詳細は同窓会象の会ホームページに記載)

●定員 各回約100名

●受講申込 当日会場入口前にて整理券配布(定員になり次第終了)

両日とも・第一部9時30分～・第二部12時30分～

●受講料 1講座500円(本学学生は無料：学生証提示)

会場受付で集金

●講座 11月4日(土)2講座、11月5日(日)2講座

計4講座開講

<11月4日>

【第一部】テーマ「近現代の日本画壇と京都市立芸術大学の日本画教育」

講師：松尾芳樹

京都市立芸術大学芸術資料館学芸担当課長

1984年京都市立芸術大学日本画科大学院修了

【第二部】テーマ「現代の抽象彫刻と京都市立芸術大学の教育」

一辻晋堂と堀内正和 二人の功績―

講師：竹内三雄

彫刻家

1974年京都市立芸術大学彫刻科専攻科修了

元京都嵯峨芸術大学教授

<11月5日>

【第一部】テーマ「うるし工芸 温故知新」

講師：三木表延彦(三木久延)

漆工芸家

1960年京都市立美術大学工芸科塗装専攻卒業

【第二部】テーマ「京都洋画壇の成立と展開」

講師：建畠 哲

京都芸術センター館長

元京都市立芸術大学学長

京都市立芸術大学名誉教授

●その他予定に変更がある場合もありますので、同窓会象の会のホームページをご覧ください。

* 同窓会象の会ホームページ

<http://www.kyogei-ob.jp>

公開講座担当 阿部 緑(同窓会副会長)

新任あいさつ (2023年4月)

油画研究室 特任教授(専門 絵画)

谷本 天志(たにもと たかし)



本年度、油画専攻の特任に着任させていただきました谷本天志と申します。移転を含む雑事の多い期間ですが学生が制作に注力できる環境づくりに努めていきます。短い間ですがどうぞよろしくお願いいたします。



デザイン科デザインB研究室 講師(専門 哲学・デザインなど)

谷川 嘉浩(たにかわ よしひろ)



デザイン科の再編によって、2023年度よりデザインB専攻と総合デザイン専攻が生まれた。特任講師として過ごした3年を経て、デザインB専攻に改めて専任講師として赴任することになった(つまり、二度目の「新任」を経験しているわけだ)。教員同士の関係性や改組の事情についての詳細は私は承知していないが、私なりに、私が着任するデザインB専攻に抱く思いがある。

世間の人々が思い描くデザインという領域の輪郭をなぞるように、デザイン行為やデザイン教育が成り立っているわけではない。デザインとそうでないものの境界線はあらかじめ存在するのではなく、私たちがデザインするその度ごとに引かれ直されていく。しかし、多くの人は『白

い巨塔』のように他人に荒らされない「自分のシマ」を持つことが好きなので、自分の仕事を明確な形や輪郭を持つものとして描きたがるところがある。だが、それは国境と同じく、後から人工的に引かれた線だ。本質に先立って行為がある。線引き先だって営みがある。デザインB専攻は、そうした生成的なあり方を擁護する言葉であり、そういうデザインを求める人たちの居場所なのだと思う。

そう考えるようになったきっかけの一つは、私が編者を務めた『(京大発)専門分野の越え方：対話からはじまる学際探求』(ナカニシヤ出版)にあるので、関心ある方はそちらも読んでもらえるとうれしい。

油画研究室 講師(専門 絵画)

唐仁原 希(とうじんばら のぞみ)



みなさん、こんにちは。この度、美術学部・美術科・油画研究室の講師として着任いたしました唐仁原希と申します。専門領域は絵画です。

私は学士から博士(後期)課程まで一貫して、本学、京都市立芸術大学で学びました。表現するための術を京芸で培い、私の人生は豊かなものとなりました。京芸で教育を受けていなければ、今の作品スタイルを確立することも、表現することの喜びを知ることもなかったでしょう。

本当にやりたいことを選択するには勇気が必要です。学生には、その勇気を後押しする技術や知識、そして経験を大学という場で身につけてほしいと考えています。

教養と経験に裏打ちされた選択は力強く、社会に彩りを与えます。臆病だった私の背中をいつも押ししてくれたのは、学生時代に得た経験でした。これまで京芸の先生方がそうであったように、私も作品制作を通して、自律的に選択し表現することの素晴らしさを伝えたいと考えています。

大学移転という京芸にとって節目の時期の着任に大変責任を感じています。私自身、まだまだ未熟なところもございますが、学生と共に学び、芸術表現について日々探求していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

共通教育研究室 講師(専門 数理経済学)

村上 裕美(むらかみ ひろみ)



4月より、社会科学領域、とくに経済学の授業を担当する学科教員として着任いたしました、村上裕美と申します。私の専門は一般均衡理論と呼ばれる分野で、今日の信用貨幣、およびそれが引き起こす諸問題を適切に扱うための、理論的枠組みの構築を目指しています。

私たちがその中に棲んでいる／棲み込まされている「社会」というよく分からないものに対し、数理モデルという形を与えて切り込んでいくところが、経済学研究の大きな魅力です。実際、経済学は社会科学のなかでもとりわけ標準化、体系化された分野であるといわれています。しかし、人間の世界としての社会を、数学を用いて厳密に描いたとしても、なおその背後には、本来目指すべき重要課題がないがしろにされている危険性があり、そう

した限界を踏まえた上ではじめて、理論の意義も存在するといえます。現在の社会の在り方、市場メカニズム、あるいは資本主義、そういったものに対する違和感を抱いている学生にこそ、その疑問を語る方法として、経済学の視点を身に付けていただきたいと考えています。

前期の授業はオンライン中心で、学生や教員の皆様と話す機会はまだまだ少なく、対面授業がはじまる10月から本格的に始動する見通しです。これまで経済学部や商学部で学生・教員生活を過ごして参りましたので、まったく未知の世界に足を踏み入れた状況ですが、一日も早く新しい環境に慣れ、教育・研究活動に精一杯取り組んで参ります。

日本画研究室 講師(専門 日本画)

翟 建群(てき けんぐん)



今年4月から日本画研究室に講師として着任した翟建群(テキ ケンゲン)です。2020年4月から特任准教授として着任して3年間あまりが経ち、日本画専攻での実技指導、及び総合基礎の応援教師に加わり講義を行ってきました。美術教育の現場で学生達の考えや疑問に接し、自身の制作研究と筆墨技法に対する示唆を多く得ました。またこれまで関わった先生方との交流で、日本と中国の美術教育の方向性についても感じる事が多くありました。先生方の教育に尽くす姿勢にも深く感動しました。20年前留学中、日本画専攻の先生方には胡粉の溶き方などの基礎

的なことから教えていただいたり、遠く敦煌、キジル、チベットの古美術を探究する旅に連れて行っていただきました。先生方の謙虚で、あくまで理想を追求する教育姿勢は私の灯台になりました。これから私も、学生たちに伝えたいと思います。

これまで三十の国を取材し、世界各地の作家との交流で芸術に対する様々な考え方に触れてきました。これからも相互理解と協力体制を構築することに自分なりの力を入れて、芸術の未来を考えていきたいです。

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

にしむら りょう
西村 涼

2018年（平30）絵画専攻（版画）修了

「持続」

私は、大学院生の時に京都市立芸術大学へ入学しました。京芸に入学したのは、学部生の時とは違う環境で視野を広げたかったからです。銅版画が好きで、毎日朝から晩まで工房で制作をしていました。



修了後は、再び環境を変えたくて嵯峨美術大学の複合領域の教務助手を勤めました。自分が学んだ分野と違う領域で経験を積むことができました。また、最初は制作と生活のバランスをうまく保つ事が難しかったですが、次第に自分に適したリズムを作ることができて有意義な時間を過ごしてこれました。

またコロナ渦では、大学の仕事、展覧会が全てストップしてしまい、何もできない時間が続きました。

その際「市内にいる必要がないから郊外へ引っ越し、小さくてもいいから自宅兼アトリエを構えよう」と思い立ち、以前通っていた画塾の先生からプレス機を頂いて、友人に運送を手伝ってもらい拠点を移しました。

今は助手の任期を終え、自身の制作に集中する日々を送っています。展覧会を開催する現地に赴き、滞在制作をする機会も増えたので、プレス機を使わず制作する方法も模索中です。

淡々とした文になりましたが、結局私は今も変わらず制作ばかりしています。勿論色々なことが変わり続けているのですが、その中でも好きなことを続けていることは何より幸せです。



ずっと好きなことを続ける為にも、その時その時で出来ることをやってみること、敬意を持った上で周りを頼ること、そんな当たり前のことを大切に思い、今日も制作に向き合っています。

やまおか ひろかず
山岡 廣和

1972年（昭47）日本画科専攻卒業

「日課を楽しむ」

京都市立芸術大学日本画科を卒業後、着物制作、絵画教室主宰、平安女学院大学子ども学部教員を経て、現在は主宰している絵画教室に再登板しています。



小学生の頃、付近の吉田山・大文字山でカナブン、かぶとむし、セミなどの昆虫を捕獲し、川では魚を追いかけて遊んでいました。自然の中で過ごすのが楽しく、美しい山々・魚・昆虫などを見て楽しんでいた私が、日本画という絵画形態を学び、絵を描くようになったのは決して偶然ではないように今では思っています。子どもの頃の思いというのは大人になっても変わらないものですね。

最近では、未明からの散歩を日課にしています。星空の中、自宅（市原野）から二ノ瀬、深泥池、宝ヶ池、上賀茂神社、太田神社、北山通、鴨川などを日替わりで歩いて楽しんでいます。昔からの建造物は今も多く残っていますし、新しい建物もきれいな街並みの一角を占めていて、美しい地域群だと思えます。

6月の梅雨の時期、自宅周辺ではアジサイ、花しょうぶ、ホタルブクロ、十葉、アザミなどの花々、梅、山椒、ビワ、グミなどの実を見つけることができます。

自然が好きであつたけれど、花にそれほど興味がなかったのに、花を描くことが制作の主になったのは、一回生の時「毎日花をスケッチすると良いですよ」との木下章先生のアドバイスの言葉でした。以来、四季に咲く花々の制作をしています。あるラジオ番組の中で、今日の誕生花というコーナーがあります。その誕生花のポストカードを作成し、ある方の誕生日に差し上げました。自分が身に着けた技術で人に喜んでいただいたことが、うれしくもあり有難く思ったものでした。

これからも、自然の美しさ・楽しさを感じながら絵を描き、教室の皆さんには楽しく集っていただくように努力したいと思っています。



次号に紹介される方は、
くろかわ たかし
黒川 岳さん
2018年（平30）彫刻専攻 修了



次号に紹介される方は、
まきの よしみ
牧野 良美さん
1972年（昭47）日本画科専攻卒業

2022年度

「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品 (12点)

会期=2023年2月8日~12日 会場=京都市立芸術大学、京都市京セラ美術館



ひの鳥がかえってく 今日も

橘 葉月

美術学部 美術科 油画専攻 4回生



春道草 カラスムギ・ナガバギシギシ・ヘラオオバコ・シロツメクサ・ムラサキツメクサ

大都 遥加

美術研究科 絵画専攻 日本画 2回生



フランスパンを持つ母

柴田 若奈

美術研究科 絵画専攻 版画 2回生



sabi

植村 風吾

美術学部 工芸科 染織専攻 4回生



いさぎよい

香川 未生

美術学部 デザイン科 プロダクト・デザイン専攻 4回生



京芸 + 京都市立芸術大学新キャンパス
C地区前空き地の活用提案

王 昱潔

美術研究科 デザイン専攻 環境デザイン 2回生



A Moment of Pleasure

汪 汀

美術研究科 絵画専攻 構想設計 2回生



表情五十一音図

野草 萌

美術学部 デザイン科 ビジュアル・デザイン専攻 4回生



姿

小峰 花香

美術研究科 工芸専攻 漆工 2回生



存在の発露

佐々木 大空

美術研究科 彫刻専攻 彫刻 2回生



深淵

岡田 茜

美術学部 工芸科 陶磁器専攻 4回生



沈南蘋の画風形成について

—《雪中遊兔図》(泉屋博古館)を中心に—

島田 千晴

美術学部 総合芸術学科 総合芸術学専攻 4回生

芸術資料館（来春リニューアルオープン）

芸術資料館は、本学のキャンパス全面移転にあわせて新キャンパスに移転します。本年度は移転に向けた作業を行っており、毎年開催していた収蔵品展も休止しています。移転リニューアル

後のオープンは、令和6年春を予定しており、本学の150年近い歴史の中で行われてきた教育活動と生み出されてきた多様な作品をあらためて顕彰する展覧会を企画しています。

事務局だより

<振替口座>

ゆうちょ銀行 口座番号 01030-7-12844

他の金融機関から（店名）一〇九（店番）109 当座 0012844

名義 京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会

<問い合わせ・連絡先>

Email:info@kyogei-ob.jp

● 会費納入の在校生に「会報」送付

本号から同窓会会費を納入いただいている在校生にも会報を送付することにしました。これは入学時に入会金と終身会費納入のお願いをしたことによる対応です。在校生は住所移動が多いため、手元にうまく届か不安です。届かなかった場合は同窓会事務局まで連絡ください。

● 同窓会事務局の移転

大学移転に伴い同窓会事務局（音楽真声会と共有）も移転します。予定では9月末頃で移転先は、C地区D棟2階北東角(47.3㎡)です。

次の場合は、事務局までご連絡ください

● 同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など（個展、グループ展）で同窓会の後援を希望される場合。

● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

同窓会会費の納入をお願いします

会費の納入状況は同封の払込取扱票に印字されていますので、未納の方は納入くださいますようお願いいたします。本ページ上記に記載のゆうちょ銀行の口座宛てに振り込んでいただくこともできます。

住所： 〒600-8206 京都市下京区下之町57-1

京都市立芸術大学内 美術学部同窓会象の会

電話（固定）番号など未定（携帯は同じ）

● 移転オープニングセレモニー開催

京都市立芸大と美術工芸高校の移転整備完了と新たな門出を迎え、10月1日（日）午後、大学（堀場信吉記念ホール）において両校のオープニングセレモニーが開催されます。同窓会象の会からも正副会長などが参列して移転を祝います。

● 満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

● 氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

編集後記

- 年々上昇する気温やそれに伴う世界規模の災害を起こす異常気象は「地球温暖化」から「地球沸騰化」へと変化しているとされています。日本も今夏は猛暑日が続き、各地で線状降水帯による豪雨災害が頻発するなど大きな被害に見舞われました。同窓生の皆様がお住まいの地域は大丈夫だったでしょうか？
- 7月1日の創立記念日に実施されました『ありがとう沓掛キャンパス』のイベントには多くの卒業生や学生、地域の方々にご参加いただき、また、このイベントを盛り上げるために多くの時間を費やし多大なご協力をいただきました有志の皆様のお陰で、沓掛キャンパスでの両学部同窓会最後の行事を有終の美で飾ることができました。

- 1980年から2023年までの43年間にわたり芸大の学び舎として慣れ親しんできました沓掛キャンパスともいよいよお別れの時がきました。このキャンパスで学生時代を過ごされた皆様には数えきれない思い出がおりだと思えます。かくいう私もその一人です。
- 本報77号発刊にあたり、ご投稿、ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。引き続き、皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

（編集委員長：阿部 緑）